



南筑後外国語教育研究サークル

会長 柳川市立三橋中学校 校長 境 宏文

☆3月7日(土) 13:30~18:00! (サンコア) 16名参加

## 1 2月21日中嶋洋一先生講演会を振り返って

特に印象に残ったことや、早速取り入れたこと(今後実践したいこと)について話し合いました。

### ○やってみた(やってみたい)活動 No.1 "WHO AM I?"

- ・自分が誰なのか、一人に1クエスチョンで、段階をおってたくさん会話することができ、多くの人と質問しあうことで、どんな質問をすればよいかわかる。最後にグループで自分が誰かわかるまで助けあい、全員がわかると拍手があり、全員に達成感があったので、ぜひやりたい。
- ・やってみたら、30人分の違う有名人やキャラクターを準備するのが難しかった。  
→生徒に誰を出題するかアイデアを出させてはどうかという意見がでました。

### ○活動の指示の出し方、見通しの持たせ方

- ・次にどうするのか見通しがもて、一つ一つの活動がつながっていた指示の出し方をできるようにしたい。

### ○教師としての心構え(印象的なお話がありました)

～試験前の復習で、一人一人が日本語の意味を言い、英語の単語を答える活動したところ、英語があまり得意でない生徒が「かけがえのない」という問題をだしたところ、「そんな単語習ったっけ?」「何言ってるの?」という空気がクラスに一瞬流れました。私は「何だろう?」と必死でその子の答えを考え、単元の中で「かけがえのない」という解釈をしたことを思い出し、「Only!」と答えたら、その子が「That's right.」ととても嬉しそうに言いました。私ははじめて「やっと本当の教師になれた」と思いました。そしてそれは中嶋先生のお話を聞いていたおかげだと思えました。～

人間教育の一環としての英語教育の役割をこれからも忘れずやっていきたいと確認しあいました。

## 2 東京都港区立赤坂中学校 北原延晃先生の授業について

2月24日の北原先生ご退職前最後の公開授業を参観された小田先生、高山先生の報告とともに、北原先生の授業DVDを見ました。その中からいくつか・・・

- 一つも無駄がない生徒の活動主体の授業～これから目指すべきオール・イングリッシュ授業のモデル
  - ・生徒が1時間の中で何をすべきがわかっているため、教師の指示と説明はほんのわずか。
  - ・1時間じゅう、生徒は集中して常に英語に触れ、使い、あつという間に授業が終わったという印象。
  - ・音読が徹底され、1年生から3年までの教科書を生徒は持っていて、内容がすべて頭に入っていた。

### ○すべての生徒の学力を保障する取組

- ・学力を保障するためには厳しさも必要。提出物、正確な音読、できるまで休み時間や放課後の時間を使い、徹底して指導されていた。(忘れ物をしたら罰当番、クラスに多いとその授業は朝やり直し等)

### ○基礎・基本の徹底とそれを使って表現する喜び・楽しみのある授業～3年間の見通しをもって

- ・何がどうできればよいか、という明確な目標と実現のために、緻密に計画されている。
- ・音読の徹底から音と文字が結びついているので、話したことはすべて書けるようになっている。

### ○ユーモアと愛のある授業

- ・2月24日に生徒が最初に歌ったビリージョエルの曲は長年歌わせてなかった。なぜか・・・以前卒業式の朝、学級の生徒全員が北原先生を迎えにきて、自宅の前で大合唱してくれた大切な思い出の歌だったから。そんな経験のある先生は他にあるでしょうか?

**\*今年夏、8月8日(土)北原先生講演会、南筑後管内で予定しています。お楽しみに!**

## 3 南筑後版 Can-Do リスト見直し

- H27年度4月から使えるよう、3学年分の見直しをしました。「何をどうできるようになるか」目標をもたせ、「できるようになった!」と生徒に自信を持たせる授業づくりのため、各学校で自校化してご活用ください。(文責 松尾)